

第4回中野区ユニバーサルデザイン推進審議会 議事録

日時

令和5年5月11日（木） 午後7時から午後9時まで

場所

中野区役所 7階 第9・10会議室（オンライン併用）

出席委員（14名） ※オンライン参加者

徳田良英（会長）／山崎泰広（副会長）／市原恭代／伊藤勝昭／大野永美子／
小川将和／倉知和美／白岩裕子／新家愛／瀬田敏幸／高橋博行／出竹美奈／
マッケンジー臣恵※／矢島和行

事務局

企画部長 岩浅英樹

企画部ユニバーサルデザイン推進担当課長 国分雄樹

企画部企画課平和・人権・男女共同参画係員 2名

徳田会長

定刻になりましたので、第4回中野区ユニバーサルデザイン推進審議会を開催します。本日もみなさまから多くの意見をいただければと考えています。よろしくお願ひします。

本日の出席状況は14名の出席で過半数に達しています。中野区ユニバーサルデザイン推進審議会規則第4条第2項の規定に従いまして、有効に成立していることを確認しました。

まず、企画部長とユニバーサルデザイン推進担当課長が人事異動で変わったとのことです。紹介と本日の配付資料の説明を事務局からお願いします。

国分ユニバーサルデザイン推進担当課長

4月から異動して参りました事務局の紹介と挨拶をさせていただきます。

（岩浅企画部長、国分ユニバーサルデザイン推進担当課長 自己紹介）

続きまして、本日の資料を説明いたします。

（配布資料 説明）

徳田会長

これまで現在のユニバーサルデザイン推進計画について議論をしてきましたが、これを踏まえて、本日と次回の第5回審議会で、答申としてまとめていきたいと思えます。

諮問は、「中野区ユニバーサルデザイン推進条例に示す目的である全員参加型社会及び地域の活性化を実現するため、中野区ユニバーサルデザイン推進計画の改定にあたって盛り込むべき事項等について」です。これまでのみなさんの意見などを踏まえて、事務局で資料1の答申のたたき台を作成してもらいました。こちらについて、事務局から全体の説明をお願いします。

国分ユニバーサルデザイン推進担当課長

(資料1 答申(たたき台) 説明)

徳田会長

それでは、具体的に内容を考えていきます。次第では、「基本的な考え方」からとなっていますが、答申の主要部分になる次第1の(2)と(3)「改定する計画に盛り込むべき事項」から議論して、後から戻って「基本的な考え方」との整合性を確認します。

資料1の3ページ目「評価と点検から」をご覧ください。事務局から読み上げをお願いします。

国分ユニバーサルデザイン推進担当課長

(資料1 答申(たたき台)「評価と点検から」 読み上げ)

徳田会長

この内容について、意見はありますか。

今はないようですね。あとから気がついた部分があったら、戻って議論しましょう。次に進みます。4ページから5ページの「ハードの視点から」について、事務局からお願いします。

国分ユニバーサルデザイン推進担当課長

(資料1 答申(たたき台)「ハードの視点から」 読み上げ)

徳田会長

この内容について、意見はありますか。

山崎副会長

「ユニバーサルデザインがあまり導入されていないという実態」の部分で、調査結果をみると、事業所に理解はされているけれども実践はされていませんでした、と表現の仕方に変えるといいと思います。

大野委員

第2回審議会で天神通りの話題が出ました。あとから調べると、段差が2センチなくても歩道との境が分かりやすい、板橋式ブロックがそこで採用されているようでした。東京都の福祉のまちづくりのマニュアルにはこのブロックのことは入っていないので、案内として入れるといいと思いました。

また、エスコートゾーンは東京都のマニュアルに入っているのこれから増えていくと思いますが、中野区でも記載するといいと考えます。

高橋委員

「事業所の合理的配慮の提供が義務化されます」の部分で、民間の事業所にも合理的配慮が義務化されるようになると理解しています。一般的な「事業所」としたことに意味があったら教えてください。

国分ユニバーサルデザイン推進担当課長

ここでは、民間事業所を意味しているので、ご指摘の通り修正します。

高橋委員

行政はもともと義務化されていますので、「民間事業所にも合理的配慮の義務化される」と変えた方がいいと思います。

また、同じ段落の「事業所にとって過度な負担にならず」は、すべての事業所を指しているのこのままでいいと思います。

山崎副会長

同じ部分で、民間事業所に対してすごくやさしく書いていると感じました。事業所にとってメリットになることを伝えて理解してもらおうということだと思いますが、待ったなしであると理解してもらおうことが大切です。

徳田会長

では、次に進みます。6ページから7ページの「ソフトの視点から」について、事務局からお願いします。

国分ユニバーサルデザイン推進担当課長

(資料1 答申(たたき台)「ソフトの視点から」 読み上げ)

徳田会長

この内容について、意見はありますか。

山崎副会長

読んでいて、電子申請やDX、ICTばかりだと感じました。ソフトは商品・サービスの提供に関して、人手による介助等、もっといろいろなことがあると思います。ICTも大事なことですが、それ以外の部分のことも盛り込んだ方がいいです。

また、災害時の情報の部分に、やさしい日本語やピクトグラムの記載がありますが、「多様な人」と対象がぼやけてしまいます。情報面でよく置いてきぼりにされてしまう、視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者等の方に情報を届けることを書いた方がいいと思います。

徳田会長

今朝大きな地震がありまして、私の住んでいる地域では朝早くに防災無線が鳴ったのですけれども、日本語でした。いろいろな国の言葉が出てくるとそれはそれで混乱してしまうかもしれないのですが。

大野委員

賃貸物件に火災警報器がありますが、音の警報のため聴覚障害の方が気づきにくいです。貸主も安心して物件を貸せるように、他自治体では光でも知らせる機器の設置を支援するサービスがあるようです。中野区でもそういったサービスがあるなら、わかりやすい広報をしてほしいです。

マッケンジー委員

災害の情報提供に関して質問です。防災行政無線戸別受信機はどことつながる無線ですか。

岩浅企画部長

戸別受信機は、「パンザマスト」と呼ばれる高い位置に設置してある防災行政無線のスピーカーから防災の情報を受信します。双方でやり取りをする機能は持っていません。

マッケンジー委員

一方的に知らせる無線なのですね。ここの部分をもっと記載できないでしょうか。「重要な課題」と書いている割に文章が短いので、区としての対応をもっと盛り込むといいと思います。

岩浅企画部長

今回考えていただいている答申では区の今後の取り組みを書くものではありませんが、計画で検討することはできます。

徳田会長

では、次に進みます。8ページの「ハートの視点から」について、事務局からお願いします。

国分ユニバーサルデザイン推進担当課長

(資料1 答申(たたき台)「ハートの視点から」 読み上げ)

徳田会長

この内容について、意見はありますか。

山崎副会長

「心のバリアフリー」という言葉が入っていないことに気がつきました。東京オリンピック・パラリンピックのときに、国のユニバーサルデザイン2020行動計画をつくりましたが、ユニバーサルデザインの街づくりと心のバリアフリーの2本立てとするくらい重要に取り扱いました。中野区の計画の基本理念で「ハート」としているところは、心のバリアフリーと同じことだと思えますが、最近よく使われている言葉なので、リンクさせると良いと思います。心のバリアフリーの定義をどこかに書くと分かりやすくなると思います。

また、障害の社会モデルは分かる人と分からない人がいると思うので、医学モデルとの違いを書いた方が分かりやすいと思います。私がお手伝いをした、ライオンズクラブが作った心のバリアフリーの冊子では、障害の社会モデルと医学モデルを簡単に分かりやすく説明しています。障害者差別解消法のことや心のバリアフリーの対応方法を書いているので、参考になると思います。

山崎副会長

「基本的な考え方」にある、医学モデルの説明の「個人的治療により問題解決を図る」は、よく定義で使われる言葉ですが、分かりにくいと感じます。医学モデルは障害自体が悪く、社会モデルは社会が悪いと、もっと分かりやすく書いた方がいいと思います。

徳田会長

それでは、ここまでの部分で広く議論したいと思います。

伊藤委員

「ハートの視点から」に職員向け研修について一般的な記載がありますが、このようにしていく、という意欲的な計画は入れられないでしょうか。数字的な記載ではなく、実際にどのように取り組んでいくのかを書いた方がいいと思います。

国分ユニバーサルデザイン推進担当課長

区の計画ではなく、審議会の意見を区に出していただく答申のため、書き方は工夫が必要ですが、例えば「悉皆（しっかい）研修として全職員が受講できる研修となるよう」のような表現を検討できると思います。

山崎副会長

「基本的な考え方」の「ユニバーサルデザインの考え方」についてです。「バリアフリーとユニバーサルデザインに優劣の関係はなく、どちらも重要で、併せて進めていく必要があります」という部分で、私が以前、他の自治体で計画に携わったときに書いた定義が参考になると思います。

「バリアフリーが古い考え方で、ユニバーサルデザインが新しく優れた考え方ではない。どちらも日常生活での安全性・快適性・使いやすさを目指すことに変わりはない。障害者や高齢者等の特定な人のニーズに応えながらバリアフリーの取り組みを発展させ、できるだけ多くの人が安全に快適に暮らすことができる環境をつくるのがユニバーサルデザインにつながる。」としました。

また、中野にはバリアがまだまだあることは理解しておいた方が良いでしょう。最初からユニバーサルデザインも考えなくてはいけません、今あるバリアを直すときにユニバーサルデザインにしていくことなのだ、ということを忘れてはいけません。ユニバーサルデザインは新しいものばかりを目指しているように捉えられかねないので、直す部分は直してユニバーサルデザインにしていくことをどこかで表せたら良いと思います。

また、「基本的な考え方」に医学モデルと社会モデルのことが書いてありますが、国連で2006年に社会モデルの考え方が発表されて、世界的に使われているものだと伝えられると良いです。これが障害者権利条約や障害者差別解消法の基礎になっているものです。

伊藤委員

副会長が言うように、中野区にはバリアが多くあります。ユニバーサルデザインマップづくりの事業を行っていても、バリアを探して解消するのが一番良いのではと感じます。バリアを解消すればユニバーサルデザインになることを答申に入れるといいと思います。

また、中野駅にピクトグラムがたくさんあり、健常者がどこに行ったらいいかわからないことがあるという話をしました。その点で高橋委員から、視覚障害者の方は中野駅に降りたときに、どのような風景になっているかイメージが湧かず、どのようにアプローチすればいいのかわからないという話を聞きました。答申は、いろいろなバリアがあることを前提に書いてほしいです。健常者の立場から書いてあるように感じます。中野駅ガード下の音声案内の問題も以前の審議会で言われましたが、当事者にとって大きな問題ですので、そういう取り組みを行うことを表現してほしいです。

徳田会長

続きまして、9ページの「社会の大きな変化の視点から」について、事務局からお願いします。

国分ユニバーサルデザイン推進担当課長

(資料1 答申(たたき台)「社会の大きな変化の視点から」「中野駅周辺等のまちづくりの進展を踏まえた環境整備」 読み上げ)

徳田会長

この内容について、意見はありますか。

伊藤委員

「利用者の満足度が向上されるよう、使いやすさの検証を継続的に行う」というのは、利用者からの意見を取り入れるということですね。

地域情報を区民自らが共有し合う「ためまっぷ」や、区民の声のスマホ版「なかのEYE」、ごみ出しの予定が分かる「ごみ分別アプリ」などが中野区にはあります。そういうものをみんなが知ることで、住民の利益に資する施策ができると思います。そういうものを広く区民に示して、理解してもらうこともユニバーサルデザインにつながると思います。今ある資産を利用してユニバーサルデザインを実現するというような文言を入れてほしいです。

市原委員

良くできていると思いますが、どこの市町村でも同じようなことが書いてあるように思います。渋谷駅や新宿駅も再開発して、フラットにしようとしています。平たいまちではなく、迷路や巣窟のような中野のまちは、中野の特色だろうという気持ちがあります。フラットにすると、どこのまちとも変わらなくなってしまい、中野の魅力が減ってしまうのではないかと思います。ユニバーサルデザインと矛盾してしまっていますが、迂回(うかい)路を作るのはどうでしょうか。車いすや、目が見えなくても耳が聞こえなくても歩きやすい、やさしい道を巣窟みたいなまちに大回りでもいいから作って、迷路のような駅からの

道も残しておくというのを考えるのもいいのではと思います。みなさんのご意見をいただきたいです。

山崎副会長

昔はバリアフリールートが迂回（うかい）するように作られていたのですが、だんだん世界的に、階段やエレベーター、エスカレーターが同じ動線で行けることが大切になってきています。昔から都市設計やデザイナーの方たちは、わざと起伏や段差を作っていました。ただ、そのためにエレベーターをもう一つ作らなければいけない等、いろいろな影響が出ます。これから超高齢社会なので、みんなが使いやすいことがベストなのだと私は思います。

また、「社会の大きな変化の視点」の部分で、「東京オリンピック・パラリンピック大会でユニバーサルデザインの意識が人々の心に残りました」と、さらっと書いてありますが、本当に大きく変わりました。心のバリアフリーも相当進みましたし、まちづくりでも私たちが3、40年頑張ってきたことが一気に実現しました。例えば、電車とホームの段差を3センチ以下にしたり、ホテルがバリアフリーの部屋を作ることを条例に入れたり、すごく進みました。東京のバリアフリー化やユニバーサルデザイン化は大幅に向上しました。それに置いていかれないようにしなければなりません。

もう一つ理解すべきことは、ユニバーサルデザインの考え方、特にまちづくりに関して考え方がすごく変わったことです。例えば、特別なニーズがある人は全員多機能トイレにと、集約する方向で整備していたのが、機能を分散して数多く設置する方向に変わっています。

この間、中野区の新庁舎の意見を尋ねられたときに、古いタイプのユニバーサルデザインだと時代遅れになるので、ぜひ新しいタイプのユニバーサルにしてくださいという話をしました。ユニバーサルデザインもすごく進化しています。それに追いついていかなければいけないですし、そういうものを盛り込んで刷新しながら進んでいかなければいけない、次世代のユニバーサルデザインを取り込むという考え方をどこかに入れてほしいと思います。

駅に関して区は関係ないと言われてしまうのですけれども、障害者からしてみたら、中野の一番のバリアは駅です。区は、新しくするときにはこうしてください、というような意見を駅に対して言えないのですか。

岩浅企画部長

申入れはもちろんできます。

山崎副会長

駅も新しくなっていくので、ユニバーサルデザインの考えにつなげていくと入れてもいいと思います。「駅周辺」と言っていて、真ん中から逃げているように見えます。私も駅がもう少し良くなってくれたら中野にもっと来ます。いつも駅を使うのが一番億劫（おっくう）です。

高橋委員

私たちが作る中野独自のものとして、私がぜひ入れてもらいたいのが、「やさしい」という言葉です。「誰にとっても安全で快適な歩行者空間」という部分辺りに「誰にとってもやさしく安全で快適な」や「高齢者にも障害者にもすべての方にやさしい」というような表現を入れてもらいたいという希望です。

また、「利用者がわかりやすい案内サインやピクトグラム」の部分についてです。家族やガイドヘルパーさんなどと歩いているときに、その方々は高齢の方が多いのですが、必ず言われることが、字が小さいことです。様々な理由で見えにくさがある「ロービジョン」の人たちは、大きい字でないと確認が難しいです。そのため、「大きな」という言葉を入れていただければ、より具体的になると感じています。

徳田会長

続きまして、「DX推進によるサービス向上」の部分を事務局からお願いします。

国分ユニバーサルデザイン推進担当課長

（資料1 答申（たたき台）の10ページ読み上げ）

徳田会長

ありがとうございました。お気づきの点はありますでしょうか。

山崎副会長

私が気になったのは、「ユニバーサルデザインの視点から、区民が使うシステムを職員が実際に使い、検証し、改善する」という部分です。多くの場合、検証では当事者を呼ばないといけません。システムを使うのが難しい高齢者の方や障害者の方たちと一緒に検証した方が良かったと思います。コンピューター関連の方たちだと、その方たちのレベルになってしまって問題が分からないこともあります。

徳田会長

続きまして、「ハートの重要性を広める」部分です。事務局、お願いいたします。

国分ユニバーサルデザイン推進担当課長

(資料1 答申(たたき台)「ハートの重要性を広める」 読み上げ)

徳田会長

こちらでお気づきの点はありますでしょうか。

山崎副会長

先ほど申し上げました、まさに心のバリアフリーのところですね。UD2020行動計画の心のバリアフリーには、色々なことがたくさん書いてあります。学校や職場、民間事業者、お店など心のバリアフリーが全部入る部分です。心のバリアフリーとリンクさせて、様々な違いのある人たちとの理解を含めて表現すると良いと思います。ここはもっと書くことがたくさんありますし、すごく大切な部分だと思います。

瀬田委員

答申の体裁について、全体を眺めての意見と感想です。

例えば、8ページに成果指標の数値が出てきます。2023年度572人、2022年度229人というように何か所か数値で示されています。一方で、例えば6ページの「手続きに対応しにくい人は一定数いると考える必要があります」や、4ページでは「あまり導入されていないという実態が見受けられました」と、言葉だけです。全体的に数字を入れるのであれば、説得力のあるものをもっと盛り込むといいと思います。この答申を読んだ人がより分かりやすくなると思います。

心のバリアフリーが本当に大事です。以前のバリアフリーの時代から、社会全体が環境の変化に十分ついてこられなかった分、逆に今、心のバリアフリーが本当に大事な時代に入ってきていると感じます。

中野は、駅や区役所など、急激な環境変化の中にあります。だからこそ、新しい視点を取り入れるチャンスの時期と前向きにとらえ、今度の計画改定に、いかに具体的にバリアフリーやユニバーサルデザインの視点を盛り込んでいけるかが重要だと思います。他の自治体ではないチャンスととらえ、うまく盛り込んでもらえればと思います。

徳田会長

では、「基本的な考え方」に戻りたいと思います。内容を事務局からお願いします。

国分ユニバーサルデザイン推進担当課長

(資料1 答申(たたき台)「基本的な考え方」 読み上げ)

徳田会長

ここは理念の部分で、とても大事な部分だと思います。コメントやお気づきな点がありましたらお願いします。

伊藤委員

バリアフリーは、障害のある人が、社会生活をしていく上で障壁となるものを取り除くことなのですか。健常者にも適用されるとは考えない方が良いでしょうか。

山崎副会長

もともとはその考え方から始まって、そこから広がっていると思います。

徳田会長

このあたりがなかなか難しいところですが、健常者まで含めると、ユニバーサルデザインの話に近くなるかもしれません。ただ、これを別物と考えるより、ほぼ同じベクトルを向いていると理解した方が考えやすいのではないかと思います。

ユニバーサルデザインでは、障害のある人だけではなく、いろいろな人にとっても、と、幅が広がる意味においては、障害のある人のためだけではないという意味が強くなると思います。なかなかクリアにはいかない部分かなと認識しています。

山崎副会長

もともとはバリアがあって、物事ができない人をできるようにするために、バリアを取り除くことがバリアフリーです。そのため、何かできないことがある人がいたら、健常者であっても含まれます。障害のある人に対応することで多くの人たちにも対応できるということで、ユニバーサルデザインになっていきました。ユニバーサルデザインの考え方を編み出したロン・メイスさん自身も障害者です。

徳田会長

「ユニバーサルデザインの考え方」の中にある、ユニバーサルデザイン推進条例第2条の括弧の中は条例の文言そのものということですね。「個人の属性や考え方」という言葉に障害のある方まで含まれているかが心配だったのですが、条例の文言通りでしたら良いと思います。

山崎副会長

最近、ユニバーサルデザインよりもインクルージョンやダイバーシティの方が新しいのではないかなと言う人がいます。ダイバーシティとインクルージョンはこの頃よく使われる言葉ですので、その定義も簡単に書いておくと良いです。

ユニバーサルデザインにするから、インクルージョンになるのだと私は思います。多様な人がいるからダイバーシティです。多様な人がいるから、その人たちを取り残さないように、ということだと思います。

徳田会長

最近よく耳にするので、キーワードになると思います。答申にカタカナ語や略語が増えて、読解が難しくなっています。言葉の解説を入れると分かりやすいです。

新家委員

一文が長いと感じました。「基本的な考え方」では、医学モデル・社会モデルの説明と変化まで一文で表現されているので、理解しにくいと感じました。他にも7、8行が一文の部分もあるので、区切れるところがあったら区切った方が、いろいろな人が読んでも理解しやすいと思いました。

倉知委員

9ページを読んで感じた意見です。一番関心があるのが、中野駅周辺のまちづくりです。最近、中野駅を見てもものすごくたくさん重機がビルを建設していて、急にビルが建って大丈夫かと歩いていても自転車で通っていても不安があります。資料の中に、「自転車駐車場整備や走行について、安全や利便性を考慮することが必要です」とありますが、本当にそうしてほしいと思います。

山崎副会長

先ほども申し上げましたが、「ソフトの視点から」の部分がICTのことばかりになっています。現在の推進計画では、「誰でも利用しやすいサービス」とありますが、これはICTのサービスだけではないと思います。区のことだけでなく、すべてのサービスですので、民間事業も含めて様々なことがあると思います。

徳田会長

私はコンシェルジュのような方がいると、ありがたいと思います。先日、旅行代理店で飛行機の切符を取ろうとしました。手続きをしていると、ChatGPT（チャットGPT）のようなシステムで、こちらが連絡するとすぐに返事が返ってきました。ただ、どうも内容がおかしいと思って電話をすると、相手が日本語をよくわからない人で大変でした。全部機械任せではなく、人がそこに入って何かをするのは、機械化が進んだ時代だからこそ、必要な部分があるのかもしれないと思いました。ICTのことだけではなく、というのはごもっともなご意見だったと思います。

山崎副会長

例えば、聴覚障害の人に文字ボードを使ったお店の対応もソフトに入ってくると思います。また、学校でも急に視覚障害の人が来たらどうするのか等を考えなければなりません。

出竹委員

チャットでのやり取りがいろいろな企業や民間事業者のホームページ等で非常に増えています。ただ、大きな企業では特に、人と会話をできる窓口がどこを探してもなくなっているように思います。一定のやり取りをしないと進めず、不安になることがあります。高齢の人にもとても難しいと思います。先ほど出た「やさしい」という表現もあったので、すべてがまとまっていて、人にやさしく、誰でもアクセスできるようなシステムがあるといいと思いました。それに加えて、こういう時代だからこそ、人が介することを残したいと思いました。

徳田会長

答申は全部文字ではないといけないのですか。中に図を入れるのは難しいですか。

先ほど、一つの文章が長くて読みにくいとご意見がありまして、小さな図や絵が入っていると、読んだ人が分かりやすいかと感じました。全部言葉で書くならこれでいいのですが、分かりやすくということでしたら、図を入れるのも良いかと思いました。

岩浅企画部長

委員の皆様が入れた方がいいということであれば入れることができます。審議会の議論からご意見いただくことになりますので、審議会から新たにこういうデータを入れた方がいいのでは、というご提案も可能です。

国分ユニバーサルデザイン推進課長

みなさんでご審議をお願いしたいのですけれども、先ほど、ハートがとても大事だというご議論がありました。11ページには、「「ハート」はユニバーサルデザインに関するすべての取り組みの根底にあり、重要であると捉えています」と記載があります。また、徳田会長から「基本的な考え方」という項目は、「理念になるので重要」とお話があったため、その中で心のバリアフリーやハートの重要性を盛り込むのも良いとご議論を聞いていて思ったのですが、いかがでしょうか。

徳田会長

事務局から今ご提案をいただきましたけれども、私はここが一番大事な部分のため、とても良いと思いました。

山崎副会長

大事だと思うので最初に盛り込んで良いと思います。心のバリアフリーは、昔は「手伝う」ことだけでしたが、だんだんと「理解する」ことに広がってきています。答申を読む人には、知らない人もいると思うので、その意味を最初に伝えることが大事です。

また、ハートという呼び方は珍しいです。前回の審議会に私もいて、そこで作った言葉です。心のバリアフリーと呼ぶのが普通かもしれませんが、中野区ではハートという表現だと書く方が良いのではないかと思います。

徳田会長

相手を知らない、警戒してしまうのは人間にはあると思います。分かり合えれば、だんだん心の距離が近づいてきます。ご近所の方や小さなコミュニティの中でみなさんとお付き合いするような、中野区のコミュニティを上手に作っていくことから、ハートの部分が醸成されていくのではないかと感じています。

私自身自身が、知らない人とすぐに警戒せずに仲良くなれるか、というとそうではなく、お付き合いをしていく中で、警戒心が小さくなっていくことがあります。急にハートと言われても、我が身を振り返ると難しい部分もあるので、小さくとも少しずつ仲良くしていくことが大事だと思います。

山崎副会長

国のUD2020行動計画で、新しいと思うことがもう一つありました。

「ハートの視点から」に、「一人一人が違うことを理解して取り組んでいく必要がある」と書いてあるのですけれども、理解を含めて、コミュニケーションをとり、支え合う、と国では言っています。障害のある人や弱者の人がいつも与えられる側（がわ）ではなく、逆に手伝えることもあります。そのため、「支え合う」という言葉を国で使っていました。今後、そういうことも大事だと思います。

出竹委員

「ソフトの視点」の「また、地域で気軽に楽しく学べる場づくりに取り組んでいます」の文章についてです。

多様な状況にある人と知り合ったり、接したりすることは理解につながることで、大切だと思っています。「高齢化が進む中で一層」とあり、限定しているわけではないと思いますが、居場所というどうしても高齢者のことのように見えてしまう可能性があると感じました。ここは高齢者だけでなく、お互いに理解したり、支え合ったりという交流や出会う場のような意味の居場所にうまくつながると良いと感じました。

小川委員

資料の中で、民間事業者がバリアフリーやユニバーサルデザインを義務づけられるといった記載があります。

路線バスの車両はユニバーサルデザインに準拠しているものを新しく購入しています。ほぼ100%ユニバーサルデザインの指針に基づいた車両を使っています。ただ、バスはバス停での乗り降りが必要です。そのバス停自体はバス会社のもではなく、中野区道、東京都道等です。その道路をバリアフリーやユニバーサルデザインにしていくのはとても大事だと以前から思っており、ドアの位置に合わせてガードレールを開けたり、段差をなくしたりする必要があります。

しかし、それを実現しようとする、バス会社がお客やバス会社の利益のために整備するという、道路は自費工事になります。当社関東バスにおいては、都内に千本ぐらゐのバス停があります。その整備が義務づけられると、事業者だけでは難しいと感じます。助成も多少ありますが、このようなユニバーサルデザインの計画を出すならば、中野区として支えていただくお考えはあるのかとお聞きしたいところです。民間事業者にやらない、義務ですというだけでは、なかなか進まないのではないかと感じます。

徳田会長

このような意見が初めて出てきて、切実な、またお金のことはとても大事だと思います。改修にあたっての財源をどこから出すか、また受益者が誰になるのか、受益者の負担の範囲はどこまでか、というのは大事なテーマだと思います。

山崎副会長

民間だけにとお話をありましたが、そうではありません。公的なところは義務で、民間は努力義務でした。ただ、努力義務を課していても全然進まない、3、4年間の猶予を経て、義務になるということです。

また、このことはユニバーサルデザインというよりも、合理的配慮に対してです。合理的配慮なので、実現の方法は一つとは決まっています。

徳田会長

文章の中で入れられることがあれば、入れるといいかもしれません。小川委員、山崎副会長の両方の意見をきちんと酌み取らないと、実現しないものだと思います。

それでは、本日もたくさんご意見をいただきまして、ありがとうございました。本日の議論を反映して、完成版に向けて、次回また討議していきたいと思ひます。では、ユニバーサルデザイン推進担当課長から事務連絡をお願いします。

国分ユニバーサルデザイン推進課長

次回の第5回審議会は、6月9日金曜日の夜を予定しています。日にちが近づきましたら改めてご連絡をさせていただきます。

また、議事録は前回同様に委員のみなさまに確認いただいた上で作成しますので、ご協力をお願いします。

徳田会長

以上をもちまして、第4回中野区ユニバーサルデザイン推進審議会を閉会します。本日はありがとうございました。

(午後8時40分閉会)